

第14回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和5年2月18日(土) 午前10時00分～11時10分

【場 所】プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 2名 新井自治会 3名 落川上自治会 2名
百草園団地自治会 2名 百草園自治会 2名

事務局：日野市 5名（環境共生部長、クリーンセンター長兼施設課長、ごみゼロ推進課長、ごみゼロ推進課課長補佐、施設課課長補佐）

国分寺市 2名（建設環境部長、環境対策課長）

小金井市 1名（環境部長）

浅川清流環境組合 5名（事務局長、事業課長、事業課事業係長、総務課長、総務課総務係長）

【傍聴者】 1名

【配付資料】

- ・次第 「第14回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・資料2-1 「北川原公園ごみ搬入路訴訟原告団と市の合意書」
- ・資料2-2 「北川原公園ごみ搬入路裁判に関する経過の報告及び違法性解消について（地元住民向け説明資料）」
- ・資料3 「可燃ごみ処理施設運転状況」
- ・資料4 「環境定点測定結果」
- ・資料5 「可燃ごみ処理施設専門家委員会について」
- ・資料6 「次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について」
- ・資料7 「水銀回収キャンペーン実績報告」

【次 第】

1 開会

2 議事

(1) 日野市より

①プラスチック類資源化施設運転状況

<説明内容>

日野市より資料1に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：この資料を初めて見る。処理能力18.7tとはどのような意味か。また、プラスチック類等は固めて処理をしているとの理解で良いか。

(日野市)：まず、プラスチック製容器包装（お菓子包装、ラップなど）は容器

包装リサイクル協会に搬出し、材料リサイクル・ケミカルリサイクルをしている。製品プラスチック（おもちゃ、たらいなど）は当施設で破碎の上、民間業者に搬出している。残さは手選別の上、汚れ等によりリサイクルに適さないことから浅川清流環境組合で焼却処理をしている。

また、処理能力は1日5時間機械を動かした場合の処理量となる。不燃ごみは想定より多く搬入されており、稼働時間を長くして処理をしているため、処理能力以上の平均処理となっている。

(委員)：この資料は前回は配布してあり、説明もあったかと思う。前回と重複した質問になっているのではないか。

②北川原公園搬入路裁判内容報告と原告団との合意内容報告

<説明内容>

日野市より資料2-1～2-2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：資料2-2は文字が多く、分かりにくいとの意見はないか。

(日野市)：資料は分かりやすくしてほしいとの意見はあった。一方で、複雑なので詳しく説明してほしいとの意見もあり、二次元コードなどを使いつつ、必要な事項を記載している。

(委員)：北川原公園周辺4自治会とはどこを指すのか。

(日野市)：北川原公園周辺にある新石、万願寺、下田及び下田住宅の4自治会となる。なお、クリーンセンター周辺の5自治会にも今後、同様に案内を配付し、説明を予定している。

(委員)：資料2-2について、全体としてこれ位の情報は必要と思うが、2、3ページに記載の「③住民訴訟」の「経過」の敗訴、控訴、上告について、原告側から見てなのか、市側からなのかが不明なので分かるようにした方がよい。

(日野市)：現時点の案であり、読んで頂いた上で、他にご意見などあれば日野市まで連絡いただきたい。

(2) 浅川清流環境組合より

①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

②環境定点測定

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料4に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

③可燃ごみ処理施設専門家委員会について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料5に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：専門家委員にリサイクル分野の方がいるが、焼却灰には貴金属が含まれていると思う。前回も指摘をしたが、公売などしてその利益を周辺に還元できないのか。他の自治体では年間何千万円もの収入となっている事例もある。

(組合)：組合においても競争入札により有価物の売却を行っており、令和3年度は約300万円の歳入となっている。3市の分別がしっかりとされていることや、処理量・処理方法の違いにより金額の差異は生じる。売却益は歳入として処理し、施設の運営費に充てている。周辺自治体に対しては、周辺環境整備負担金により日野市にて対応をしている。

3 その他

①次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

国分寺市より資料6に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：国分寺市の生ごみたい肥化事業は、どのような方法で行っているのか。

(国分寺市)：燃やせるごみの回収を週2回実施しており、収集曜日に合わせてバケツ等に生ごみを入れ拠点回収場所へ持込んでもらい収集している。

(委員)：回収拠点の近くに住んでいる人は良いが、遠くから持ってくる人もひるのか。

(国分寺市)：近くの人々の持込みが多いが、国分寺市では拠点回収のほか、6世帯以上で市に登録をいただければ団体毎に生ごみ回収を行っている。

(委員)：せん定枝の戸別回収を落ち葉や下草も含めて行っているのか。

(国分寺市)：大きさなどの制限はあるが、戸別回収を行っている。

(委員)：小金井市のフードドライブ事業について、子ども食堂と連携して実施するなどはしていないのか。

(小金井市)：社会福祉協議会と連携して、月1回、時間を決めて市民に持って来て頂き、社会福祉協議会を通じて子ども食堂や高齢者施設などに配付、ほぼ当日に配り終わっている。毎回量が増えており、資料のとおり回収日を増やすことなどの拡大を社会福祉協議会と検討している。他にも市内団体において類似の活動をしている事例がある。

(国分寺市)：国分寺市でも同様に、社会福祉協議会と子ども食堂との連携を実施している。市独自のフードドライブは、令和2年度までは「環境まつ

り」で実施をしていたが、コロナの影響で令和3年度はまつりが中止となり、駅ビル内の商業施設の協力も得て臨時回収を行い、518 kgの回収があった。

(委員)：国分寺市のせん定枝の戸別回収方法について、せん定枝だけを回収する車があるとの理解で良いか。

(国分寺市)：専用車により、せん定枝のみの回収を行っている。

(委員)：日野市でも同様の回収を検討して欲しい。高齢化もあり指定場所まで運ぶのは大変であり、戸別回収となれば回収量も増えると思う。

(日野市)：別の回収車を出す必要があり、費用負担も含め難しい面がある。現状は回収日を決めてせん定枝のクリーンセンターでの受入れを行っている。例えば粗大ごみで申込みを受けて、回収に伺うことはできないかといった検討もしていきたい。

(委員)：戸別収集でせん定枝を出した場合、可燃として処理されているのか。

(日野市)：可燃として処理をしている。

(委員)：市民はそのことを殆ど知らず、資源回収をされていると知っているの、その辺の周知もして欲しい。

(日野市)：公共施設、例えば公園や学校などでのせん定枝の資源化も行っており、年間1,050 t位になる。クリーンセンターでの月1回のせん定枝の収集は12月までで30 t位、年間で合算すると約1,100 t位は資源化がされている。ごみゼロプランでもせん定枝の資源化が定められており、令和8年度までに1,800 tに増やす、上半期は1,300 tとしており若干届かないが、すべてを焼却しているのではなく、できるところから資源化に努めている。各世帯から出るせん定枝については費用対効果、収集方法など含め検討したい。

(委員)：造園業者など事業系のせん定枝の資源化は検討されているのか。

(日野市)：造園業者などは持込みの許可業者ではないので、民間の処理施設に運んでおり、そこで資源化等がされることとなる。

②令和4年度水銀回収キャンペーンの実績報告

<説明内容>

日野市より資料7に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

③その他（全体を通しての質疑等）

(委員)：知人よりプラスチック類資源化施設の見学が可能か聞かれ、事務所に問い合わせるよう提案したところ、一人でも見学対応をして貰い感動したとのこと。施設見学は一人でも可能か、また見学会などの周知はあるのか。

(日野市)：一人でも施設見学は可能であり、案内役を配置し、1時間程度の見学

となる。電話、メール等でも随時申込を受け付けている。

(委員)：協議会資料について、当日机上配付ではなく、事前配布をすることは可能か。あらかじめ資料を読み込むことができる。

(日野市)：開催一週間前を目安に配付できないか検討する。

4 閉会

次回会議（予定） 令和5年7月12日（水） 午後6時30分～
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上